

ビワ生育情報

第 5 報
千葉県農林水産部
令和 7 年 2 月号

本年の開花期は平年並～長かった。また、樹内での出蕾のばらつきが大きく、開花のばらつきが大きくなった。そのため、果実の発育もばらつきが大きくなっている。

花房及び果実の発育

ビワの開花期は表 1 に示した。暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が 11 月 12 日で、平年および前年より 5 日遅かった。「大房」が 11 月 26 日で、平年より 2 日遅く、前年より 7 日遅かった。「田中」が 11 月 14 日で、平年より 2 日遅く、前年より 4 日遅かった。開花盛期は、「楠」が 12 月 1 日で、平年より 6 日遅く、前年より 13 日遅かった。「大房」が 12 月 25 日で、平年より 8 日遅く、前年より 20 日遅かった。「田中」が 12 月 13 日で、平年より 12 日遅く、前年より 21 日遅かった。開花終期は、「楠」が 12 月 28 日で、平年より 5 日遅く、前年より 21 日遅かった。「大房」が 1 月 28 日で、平年より 1 日遅く、前年より 34 日遅かった。「田中」が 1 月 16 日で、平年より 10 日遅く、前年より 33 日遅かった。

前年は開花期間が短かったが、本年は平年並～長かった。出蕾期（花房発現期）が平年より遅かったが、10～12 月上旬の平均気温が高く、早期に開花した花房もあり、樹内での開花のばらつきが大きくなった。そのため、果実の発育のばらつきも大きくなっている。

表 1 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期（月．日）			開花盛期（月．日）			開花終期（月．日）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11.12	11. 7	11. 7	12. 1	11.25	11.18	12.28	12.23	12. 7
大房	11.26	11.24	11.19	12.25	12.17	12. 5	1.28	1.27	12.25
田中	11.14	11.12	11.10	12.13	12. 1	11.22	1.16	1. 6	12.14

平年：1994 年～2023 年の 30 年間の平均

開花始期：花房の 10%が開花、開花盛期：花房の 50%が開花、開花終期：花房の 90%が開花
出蕾期（花房発現期）：中心枝の 10%が出蕾した時期

令和 7 年 1 月の気象

令和 7 年 1 月の半旬別の気象を表 2 に示した。平均気温は第 2、第 3、第 5、第 6 半旬で平年より高く、第 1、第 4 半旬は平年並みで推移した。月平均気温は 7.3℃で、平年より 0.9℃高く、前年より 1.4℃低かった。

氷点下日数は 8 日で平年より 3.7 日少なかった。最低極温は第 1、第 3 半旬で平年よりも低く、その他半旬は平年よりも高かった。月全体の最低極温は第 3 半旬の -2.9℃であった。

降水量は第 2 半旬で平年より多く、その他の半旬は平年より少なかった。月合計は 48mm で平年の 56%、前年の 166%であった。

日照時間は第 1～第 3、第 5、第 6 半旬は平年より多く、第 4 半旬は平年より少なかった。月合計は 216 時間で平年の 124%、前年の 110%であった。

表 2 令和 7 年 1 月の気象(館山アメダス)

半旬	平均気温 (°C)			氷点下日数 (日)			最低極温 (°C)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	7.0	7.0	9.1	1	1.7	0	-1.3	-0.9	0.2
2	8.6	6.6	10.2	1	2.1	1	-0.6	-1.5	-0.7
3	7.1	6.3	8.5	2	2.2	2	-2.9	-1.5	-1.2
4	6.0	6.2	8.5	2	1.7	1	-0.6	-1.6	-1.0
5	8.0	6.2	9.0	0	1.7	1	0.3	-2.1	-0.9
6	7.4	6.3	6.9	2	2.3	2	-1.4	-1.9	-2.8
平均/計/最小値	7.3	6.4	8.7	8	11.7	7	-2.9	-2.1	-2.8

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0	13	3	35	30	30
2	43	15	0	35	29	41
3	0	14	1	38	28	33
4	2	13	2	21	27	26
5	0	14	24	37	27	23
6	3	17	0	50	35	45
計	48	86	29	216	175	197

平年：1991～2020年の30年間の平均

最低極温：各半旬あるいは1月中に記録した最低気温

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある

3月の作業

ビワは厳寒期を過ぎて春が近づくと、枝葉の伸長が始まり、果実の肥大が急速に進む。しかし、春先は夜間に冷え込むことがあるため、3月中旬頃までは寒害の発生が心配される。-3℃以下の低温に注意する。また、育苗を行う場合、3月になると台木の芽が動き始めるので、接ぎ木は3月中に行う。摘果や袋かけは寒波の襲来がなくなった頃から始める。

摘果・袋かけ

摘果・袋かけの作業は、3月以降、寒害を受けにくい園から始める。寒害を被った果実は、種子が少なく、形がいびつとなり、成熟前に落果することが多い。袋かけ作業をした後に寒害を被るとその果実が無駄になってしまうので、作業開始が早くなりすぎないように注意が必要である。一方、4月下旬以降まで作業が遅れ、果実の肥大が進むと擦れ傷、虫害などを被りやすくなるので、適期を逃さない様に行う。

標準的な着果程度は1果当たり20枚の葉が必要である。摘房が十分でない樹は最終的な着花房率が60%になるように摘房する。着果房数が多い樹では1果房に1～2果残し、着果房数が少ない樹では収量を確保するために3果以上着生させる。3果以上着生させると、葉枚数が適正でも果実が小さくなることもあるので、着果房数が少ない場合や個数を重視するときのみ着生させるようにする。

接ぎ木

接ぎ木の適期は、台木の芽が動き始める2月下旬～3月中旬であり、天気の安定した時期を選んで行う。気温の低い日に作業すると、接ぎ木の活着率が低下する。4月に入ると切り口から樹液の溢出が多くなり、接ぎにくくなるので、3月中に終わらせる。台木は接木部の直径が1.5cm以上のものを用いる。台木が太いものほど活着後の生育は良いが、あまり太いものは取り扱いに不便である。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>